

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第538号 平成25年5月7日

## エージシュート

「エージシュート」というのは、ゴルフの1ラウンド（18ホール）を自身の年齢以下の打数でホールアウトすることをいいます。

ゴルフをされない方には、その凄さは分からないと思いますが、多少なりともゴルフをする人にとっては、それは驚異的です。その「エージシュート」を66歳のプロゴルフプレーヤー、尾崎将司はやってのけたのです。

4月25日、兵庫県山の原GC山の原C（パー71）で行われた「つるやオープン第1日」で、ジャンボこと尾崎将司選手（66）は、本コースの最少記録タイとなる62で回り、ギャラリーを大いに沸かせました。

尾崎選手は、昨年は腰痛のため途中棄権や予選落ちが続き、1度も予選を突破できませんでした。今回はその鬱憤を晴らすように、1イーグル、9バーディー、2ボギーの9アンダーという素晴らしい成績で1日目を終わりました。

「エージシュート」は、シニアツアーでは青木功選手らが達成していますが、レギュラーツアーでは国内初の快挙です。

尾崎選手は「エージシュートは目指していない。でも、66以下というスコアは出したいと思っている。」と述べていますが、飽く迄もレギュラーツアーにこだわり続けている尾崎選手の面目躍如といったところです。

ゴルファーにとっては、プロであれアマチュアであれ是非やってみたいと思っている事が幾つかあります。それは「ホールインワン」であり「アルバトロス」であり、そして「エージシュート」です。

「ホールインワン」とは、1打目でボールをカップに入れる事、「アルバトロス」とは、パー（基準の打数）から数えて3打少なくそのホールを終了する事をいいます。これらはいずれも大変難しい事ですが、それでも運と実力があれば実現可能です。

例えば、私はかつて友人から、パー3のショートホールで、ミスショットしたにもかかわらずボールが転がってたまたまカップに吸い込まれ「ホールインワン」してしまったという話を聞いたことがあります。従って、実力はともかく運では私にも「ホールインワン」のチャンスは残されています。

一方、「アルバトロス」は、例えばパー5のロングホールを3打で上がるという事

ですから、運だけではダメで実力がなければ達成不可能です。

しかし、たとえ運や実力があっても達成する事が難しい、これが「エージシュート」です。

自分の年齢以下のスコアで回るという事は、例えば72歳の方がパー72（つるやオープンの場合はパー71）のコースを72のスコアでプレーを終えてはじめてという事です。私は現在66歳ですから、同じコースを66以下で回らなければなりません。100を切れるかどうかという実力では如何ともし難い事ですが、幾らプロとはいえ、50代のプレーヤーでは「エージシュート」は不可能といって良いでしょう。

それだけ難しい「エージシュート」を可能にするものは、運と技術と高齢になってもプレーを続けられる健康、そして気力です。この3拍子プラス1が揃って初めて、不可能が可能になります。

スポーツ選手にとって、年齢は大きなハンディです。年と共に視力や筋力の衰えは避けられませんし、多かれ少なかれ腰痛など持病を抱え込む事になります。尾崎選手は自分の年齢と熾烈に戦いながら、今なおレギュラーツアーにこだわっています。それだけに、今回の「エージシュート」には価値があります。

4日間に及ぶ戦いは、流石に尾崎選手には厳しかったようで、最後は51位に沈みましたが、彼の奮闘に拍手を贈りたいと思います。

今回の「つるやオープン」を制したのはプロに転向して2戦目の松山英樹選手でした。外国人選手など強豪抑えての優勝で、世代交代が確実に進んでいる事を感じさせます。松山選手は、これからの日本のゴルフ会を背負っていく事は間違いありません。

「高齢者の星」尾崎選手、「日本ゴルフ会の新星」松山選手、お2人の今後の活躍を祈っています。（塾頭：吉田 洋一）